

アメリカ・シアトル インターンシップ研修報告書

理学部 吉田和樹

実施期間：2019年2月14日～4月7日

○インターンシップの研修内容

- ・兵庫県ワシントン州事務所にてサクラコンのパネル作り

→4月に行われるサクラコンという日本のコミックマーケットに似たような催しがあり、それに参加する当事務所のブースに設置するパネルを作成した。内容は兵庫の紹介について。

- ・バラード高校にて日本語の先生のお手伝い

→シアトルにある公立高校にいき、主に授業の補助や日本の文化を教えるために一緒に日本の歌を歌ったり、教えたりした。

○インターンシップに必要な英語力・スキル

まずは、英語力に関していえばアメリカで生活する上では中学生レベルの文法と高校生レベルの単語力があるならば、アメリカに行って英語に触れながら学ぶほうが良いと感じました。



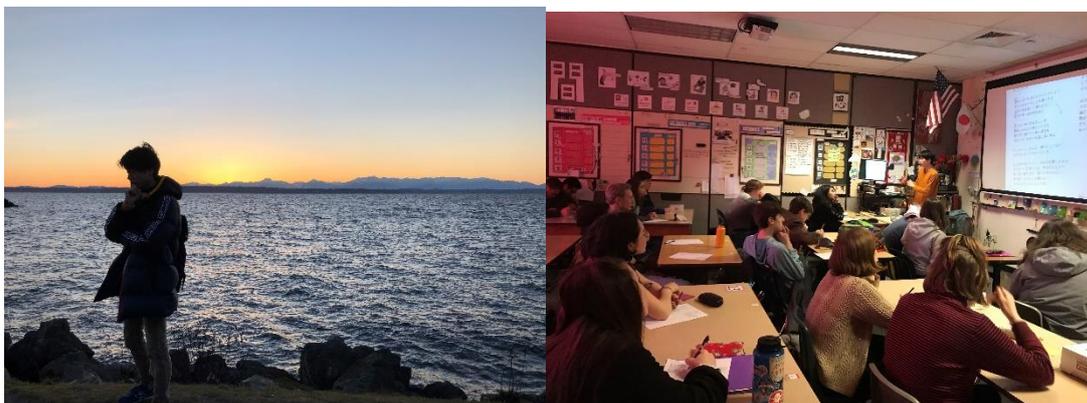
はじめにホストファミリーの英語を聞いたとき、早くて半分以上聞きとれなかったし、高校生の会話はまるで呪文のように感じました。しかし、一週間も生活していると聞き取れていなかった言葉が自分の知っている単語であることにだんだんと気づきました。事務所でインターンをする上ではアメリカの人に相談するとき以外は基本的に日本語を使い、パネルの説明を英文で書くなど位しか英語は使いません。高校では、日本語クラスの学年によって、英語を使う頻度は変わってきますが、日本語で話したい生徒には日本語を使ったり外で話すときは英語を使ったりまちまちでした。

はじめの頃、英語が聞き取れなかったときに分からず‘Yes’とってしまう癖がついてしまいました。これでトラブルが起こった事はなかったですが、

やはり会話をしている以上、相手の話を理解していないことをないがしろにするのは良くないと感じ、分からなかったら聞き返すように心がけました。初めのうちは何度も聞き返すことになるかも知れませんが、英語が聞き取れないことを怒るような人はあまりいないので気にせず挑戦してみてください。

このインターシップで必要なのはむしろ英語以外の部分だと感じました。人によってそれぞれ違うとは思いますが、日本にいるときには考えられないようなトラブルが起こったときに対処する解決力、そのトラブルに対して人に頼ることが出来る能力、未知の世界に行ったときに探究心や興味をもてる能力、あと意外に海外で生活するのは体力がいると感じました。

あと、お勧めするのが何か一芸を身につけておくことです。自分はギター弾き語りが出来たので高校で歌ったりする機会があったりしました。特に人に紹介できる何かがあればぐっと距離が近づいたりするので、そういうものを作っておくといいです。



○インターシップで得たこと

インターシップの申込書の動機を書く欄に自分は「頼る・頼られる関係を築けるようになりたい。」と書きました。その目的を達成するのにアメリカは自分にとって一番いい場所であったと思います。アメリカは人と人との絆がとても強い国だと感じました。例えば、何かトラブルがあれば見知らぬ人がすぐに助けてくれたり、何かやりたいことがあれば誰かが率先して何か助けをくれたりという経験を何度もしました。理想的なギブアンドテイクの関係だと感じました。そして、気づいたことは頼る・頼られる関係は自分が先に頼られることから始まるのではなく、先に頼ることから始まるということです。自分にとって全く知らない土地でいろんな人の助けを借りながらこのようなことを感じられただけで、このインターシップは僕にとってすごく価値のある体験になりました。

他には、自分の大学生活とは全く違う生活をするようになるので、自分の新たな一面を知るいい機会となりました。例えば、意外と生活のリズムや様

式が変わることに抵抗がないとか、シアトルに山ほどあるスターバックスのコーヒーを飲んでいると地元民になったように感じるとか、小さい事から大きな事までいろんなことを知りました。

○印象に残った事

一番印象に残っている事はやはり日本語や日本の文化がこれほどまでに受け入れられ、人気があるということでした。サクラコンもそうですが、コミコンというシアトル最大の同人イベントを訪れると、人で溢れた会場内に日本のアニメや漫画のコスプレをした人やキャラクターの絵を売る人が沢山いました。他にも、日本語を学びたいと考えている人がとても多く、その人数もこれから先、東京オリンピックなどで注目を浴びるともっと多くなるのではと感じました。

○インターシップが今後どのように活かされていくか

自分がこの体験で得たものは沢山ありますが、すぐに使えるものとそうでないものがあります。例えば、英語はこのまま勉強を続けていくつもりですし、頼る・頼られる関係を作る能力も感覚を忘れないように使っていくつもりです。最先端の文化やアートに触れて自分がどう思ったのか、それがどんな風に自分の人生と関わるのか等、インターンの経験が今後どう活かされていくのか、今の段階では予測がつかないところもあります。

○後輩達へのメッセージ

自分がこのアメリカインターンの申込書を書いているとき、正直に言うと自分にはうまく出来ないと感じていました。当時は海外に2週間以上いたことがなかったし、英語の勉強も大学に入って以来あまりしていなかったのので、話せないと思っていました。何より人に頼って何かをしてもらうことに罪悪感すら覚えていました。当時の自分は考えて、考えて、考えるのが疲れたので、自分の考えがまとまりきらないままインターンに応募をしました。そこからはアメリカに行く準備をしながら、英語の学習のためにフィリピンのセブ島に1ヶ月行ったり、英語が話せる場所に積極的に行ったりしました。アメリカに行った後も、流されながらも何か工夫できることがないかを常に探しながら、あっという間にインターンを終えて日本に帰ってきました。

もし、今、あなたが単調な生活に満足していなくて何かを変えたいと思っているならこの海外インターンは1つのチャンスになると思います。何か大きな決心や覚悟をする必要はないです。ただ、海外インターンの申請書に自

分が考えていることを自分なりにまとめ、思い切って応募してみるという行動をとるだけで充分です。後のことは後になってからでないと分かりません。一番重要なのは自分が何を大切にするのかを考えて、今、行動することです。

